

ふるさとのお話

大淵曾比奈の

逆杉

大淵の井上（曾比奈）に逆杉と呼ばれる大杉があります。この辺では塔婆を逆にたてるのが習慣だそうです。この逆にさした塔婆が根付き大杉となったということです。今回は逆杉のお話です。

村中で吊い

昔、大淵村井上の貧しい百姓夫婦に体格のよい男の子が生まれ、成長して相撲取りとなって活躍しました。

息子のおかげで、夫婦の生活は豊かになりました。村人達は、これをうらみねたみました。ところが、息子が突然急病で倒れ、相撲が取れなくなりました。夫婦の生活は、日一日と貧しくなり、あわれな最期をとげました。人をねたみうらんだ祟りで村に災難が続きました。そこで、夫婦の家の前に塔婆を逆に立てて村中で吊ったところ、前の明るい村にもどりました。この塔婆が根付き大杉となり逆杉と呼ばれています。

宇津木じんじの木

代々、この地に住む岩間正樹さん(76歳)は、私が親から聞きついで話



曾比奈の逆杉

は、少し違うね。と語ってくれました。この大杉はね、もともと宇津木じんじの木（宇津木じいさんの木）と呼ばれててね、今から250～300年程前、今の群馬県の方から宇津木さんという人が、このあたりに空木の木を買いにきていたそうだ。ある年

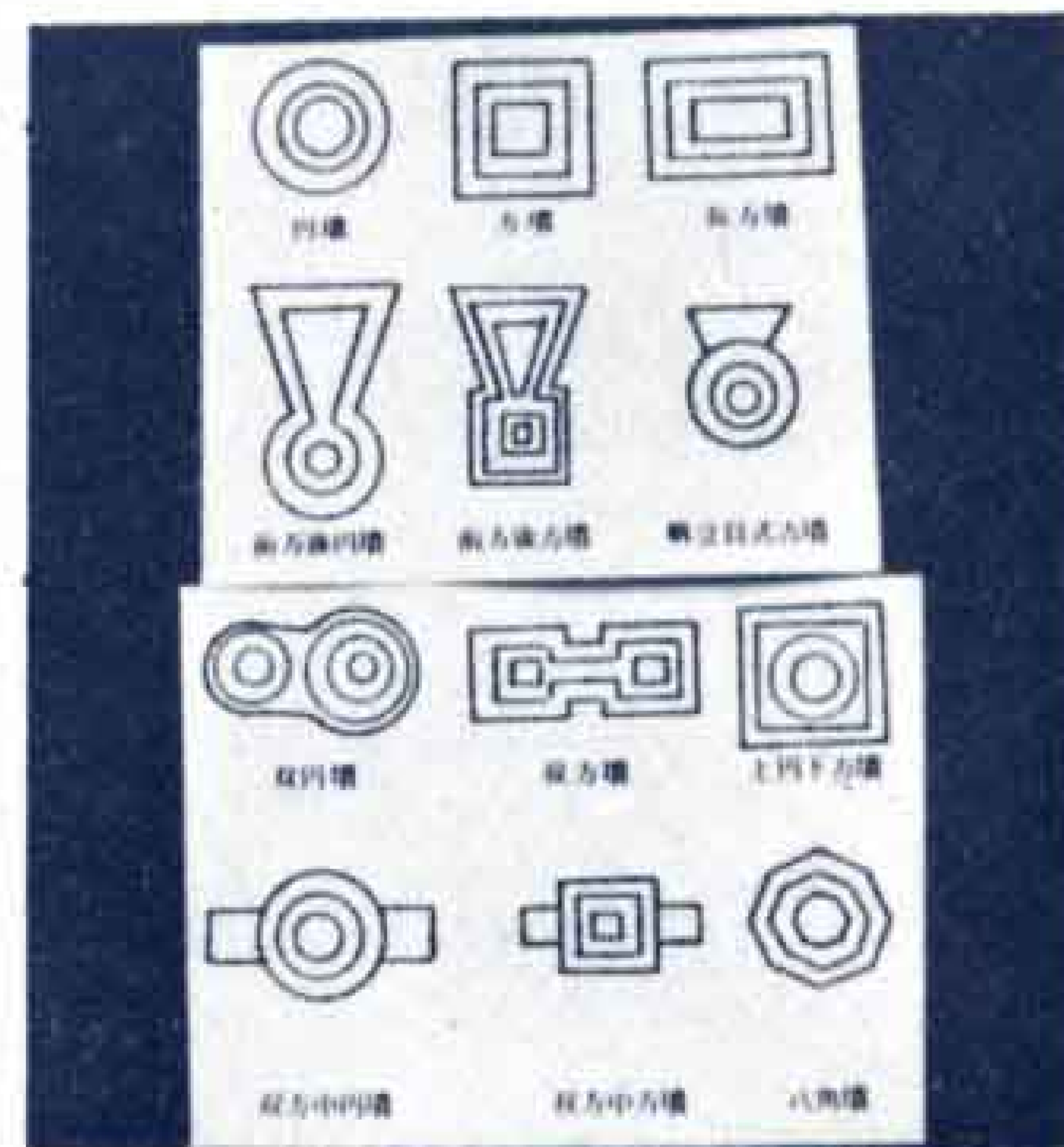


大金をもって、大量の木を買い付けに来たとき、金めあての者に殺されてね。この殺され方がむごかったよ。これを部落の衆が、杉の塔婆を逆に立てて吊ってやったんだよ。宇津木じんじの怨念もあつてか、塔婆が根付いて大杉となったんだよ。

昔、沼津市の青野村の百姓某が開発したので青野を大野と書きかえて呼んだと言う説がありますが確かではありません。この村は、慶長9年家康の臣、本多上野守の命によって高橋庄右衛門が開発した村だと言いますが、一説では、秀吉の臣、北詰某の開発ともいいます。のちに、天文堀をつくった高橋勇吉は庄右衛門の子孫です。

古墳のはなし

古墳と祖先の生活



古墳の種類

古墳の形

古墳には、「円墳」や「方墳」をはじめ、いろいろな形があります。山の神古墳のような円形と方形を組み合わせた「前方後円墳」や浅間古墳のような方形を並べた「前方後方墳」、庚申塚古墳のような「双方中方墳」などです。このほかには、「双円墳」、「双方墳」、「長方墳」、「上円下方墳」、「双方中円墳」、「帆立貝式古墳」、「八角墳」などの型があります。

日本の古墳は、もともと中国の古墳をまねて造られたようですが、のちには日本独特の「前方後円墳」や「前方後方墳」などいろいろな形が造られるようになりました。これは、葬られた人の位や性別、年齢、造られた時期によってそれぞれ異なるようです。

こちら編集室

父さん、母さん、子供たち、このほりの一家が気持ちよくお泳いでいるのが目につきます。こいさん一家のように家族円満が第一です。

地名の由来

大野新田(元吉原)

